

再評価調査書

事業名	農空間整備事業（交流型集落道）「堺南部地区」
担当部署	環境農林水産部農政室整備課農空間整備グループ（連絡先 06-6944-6751）
所在地	大阪府堺市鉢ヶ峯寺～畑
再評価理由	総事業費の変更により再評価の必要が生じた
目的	本事業が位置する堺南部丘陵地域は、大都市圏近郊に隣接し、豊かな里山的自然環境を有しており、魅力ある農畜産業関係の拠点施設が点在している。これら農業関連施設を有効に活用し、堺南部丘陵地域のみならず、河内長野市、和泉市など周辺地域を含めた地域の活性化を図り、地域連携、都市住民との交流促進などの有機的なネットワーク形成を実現するため、本事業を実施する。
内容	工種：交流型集落道（国庫補助：田圃交流基盤整備） 延長：1.4km 幅員：全幅員 10.0m（車道 7.0m、歩行者自転車道片側 3.0m）
事業費	<p>全体事業費：29.0 億円（約 18.0 億円） うち投資済事業費：20.9 億円 （内訳）調査費等 2.7 億円（約 0.9 億円） （内訳）調査費等 2.2 億円 用地費 4.5 億円（約 7.0 億円） 用地費 4.3 億円 工事費 21.8 億円（約 10.1 億円） 工事費 14.4 億円 （ ）内の数値は計画時点のもの 負担割合：国 50%、府 15%、堺市 35%</p> <p>【事業費の変更理由・工事費の内訳】 Aﾌﾟｯｸ：5.7 億円(5.0 億円) 切土による環境の改変を最小限にするため用地幅を精査し設計を行った結果、擁壁工等の構造物が増加した。 Bﾌﾟｯｸ：12.0 億円(6.2 億円) 橋梁 3 箇所と補強土壁工法による盛土工としていたが、着手後地質調査を行ったところ全線で地盤改良が必要となり、工事費の増が見込まれたため、Bﾌﾟｯｸ全線を橋梁工とする場合と経済比較したところ工事費に差がなかったことから、市や地元関係者と協議し、景観面や周囲の里山環境の連続性を遮断しない全線橋梁工とした。 Cﾌﾟｯｸ：11.3 億円(6.8 億円) 盛土材の土質データより約 30 万 m³ のうち約 3 割の土質改良が必要となることが想定されること、測量・地質調査に伴い設計を精査した結果、軟弱地盤層の改良工、砂防対策工が増加した。用地費は、買収面積の精査と買収単価の下落により減少した。</p>
事業費の変動要因	<p>【他事業者との協議状況】 農畜産業者・地域住民・環境団体等からなる「堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会」(事務局：府、市)に、工事進捗を年 1 回報告し、了承を得ている。 Bﾌﾟｯｸ工法は、用地占用先の堺市公園部局の管理委員会と協議済み。 用地買収は平成 21 年度未完了予定。 【今後の事業費の変動要因】 ・盛土材約 30 万 m³ を他の公共工事残土を活用し搬入するが、土質状況により事業費変動の可能性がある。</p>
維持管理費	3,089 千円/年（農林水産省「解説 土地改良の経済効果」） （事業完了後、施設は堺市へ管理委託を行う）
上位計画	・大阪府新農林水産業振興ビジョン(H14.3) ・おおさか農空間づくりアクションプラン(H17.3)
関連事業	農村総合整備事業「上神谷地区」（平成14年度完了） 交流ネットワーク総合整備事業「河内長野・和泉地区」（平成 25 年度完了予定）

事業概要

事業の進捗状況	経過	事前評価時点 (H17)	再評価時点 (H21)	分析
	事業採択年度 事業着手年度 完成予定年度	H15 H16 H19	H15 H16 H25	<ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷を最小限に止めるよう、関係者と協議し生態系調査やモニタリング調査等を行いながら、その結果を踏まえ工法検討を行い工事を行ってきた結果工期が延期した。 軟弱地盤対策工等事業量増に伴う必要工期確保 地区外からの盛土材調達において地域住環境配慮として地元自治会との協議による通行車両制限(100台/日)による必要工期確保
	進捗状況		用地:99.9% 工事:66.1%	(用地:全体 44,000 m ² ,残 60 m ²) (道路工 L=860m 概成)
	今後の事業進捗の見通し	<p>用地買収は平成 21 年度中に全て完了の予定であり、盛土材調達先との協議は既に完了している。</p> <p>また、自然環境への配慮については「考える会」の専門部会である「堺南部の里山に配慮した農道づくり検討会」において関係団体等と良好な関係のもとで十分協議しながら工事を進めているところであり、今後、Cﾌﾟｯｸの地盤改良工事・道路工約 300m(盛土 30 万 m³ など)・砂防対策工事(法枠工、埋設工など)・道路全線の舗装工・安全施設工を順次施工し、平成 25 年度の完成を目指す。</p>		
事業を巡る社会情勢の変化		事前評価時点	再評価時点	分析
		「事業目的に関する諸状況」の記載は次ページへ移行しました		
	地元等の協力体制	<p>地元農家、地元自治会、土地改良区、酪農団地及び堺市から強い要望がある。</p> <p>「河内長野市・和泉市・堺市広域交流ネットワーク事業推進連絡会」における地域間交流の取組みの中で、本事業に対して要望がなされている。</p>	<p>地元農家、地元自治会、酪農団地から早期完成を求める要望書が平成20年5月に提出されており、事業推進に積極的である。</p> <p>本地域における里山保全のあり方や集落道事業の環境への配慮について、農畜産業者（酪農団地・土地改良区・営農組合）、地域住民、環境団体等により『堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会』を立ち上げ、今年度まで16回(関連検討部会を別途16回)にわたり議論を行い、結果を工事に反映させ事業を推進してきたところであり、今後とも、地域と協力して本会を継続し、地域振興と自然環境が共存する取組みを進める。</p>	平成 25 年度の完成に向け、引き続き地元との協力体制により、事業の進捗に努める。

		事前評価時の想定	再評価時点での状況(変更点)	分析
事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	<p>1. 堺南部地域における農業関連施設の有効活用 堺市の耕地面積 約 1350ha (H14) 堺酪農団地 (S45 整備) 経営構造の改善が急務 「堺酪農団地活性化基本計画」を策定(H14.3)</p> <p>体験型農業公園「ハーベストの丘」(H12.4 開園) 入場者数 966 千人 (H12) 直売所利用 178 千人 (H12)</p> <p>里山などの貴重な自然の 荒廃化が目立つ</p> <p>大規模市民農園「ワルスタガーデン」 農園部 0.6ha 農のウォーキングルート推進協議会(H13.10 設置)がルート選定、マップ作成</p> <p>2. 隣接市の取組み ・河内長野市：花の文化園を中心とした緑農体験空間づくりを推進 ・和泉市：山間部で造成中の農地で交流型農業を計画 ・堺・河内長野・和泉の3市連携による農業祭 PR (H15)</p> <p>(参考) 大阪の農空間の状況 農業振興地域面積(H14)33,000ha 農地面積(H14)15,600ha 堺市の人口(H14) 堺市人 788,836 人、隣接 11 集落 8,015 人、泉北ニュータウン 144,578 人</p>	<p>1. 堺南部地域における農業関連施設の活用状況 堺市の耕地面積 約 1300ha(H20) 堺酪農団地 904 頭の成牛を飼育(府下飼育成牛 2040 頭) 6400t/年の生乳を供給(府下生産生乳 15000t/年) 子牛育成牛舎の供用開始 (H21~) 団地内敷地で玉米・ヒマワリを栽培し一般開放(毎年) 農業祭での PR 活動実施(牛乳の消費拡大、堆肥の無料配布など)(毎年) 体験型農業公園「ハーベストの丘」 入場者数 370 千人 (H20) 直売所利用 162 千人 (H20) 直売所を駐車場に移設し、敷地面積を 3.5 倍(240 m² 830 m²)に拡大してリニューアルオープン予定(H21) ・玉米館(近隣直売所)(H9 開所) 入場者 57 千人(H19)、59 千人(H20) 自然環境保全の取組み 堺自然ふれあいの森が H18.4 オープン 地域住民による里山クリーンアップ(H19~) 「ワルスタガーデン」は H17 より 100 区画(0.6ha)を増設 認定ルートにサインを設置、市民がウォーキングに活用</p> <p>2. 隣接市の取組み ・河内長野市：花の文化園を中心とした緑農体験空間づくりを引き続き推進 ・和泉市：造成完了農地で、いちご等の摘み取り、加工体験等の交流型農業を展開中 (H17~)</p> <p>(参考) 大阪の農空間の状況 農業振興地域面積(H19)33,000ha 農地面積(H19)14,400ha 堺市の人口(H21) 堺市人口 835,993 人、隣接 11 集落 8,541 人、泉北ニュータウン 137,455 人</p>	<p>本地域は、ほ場整備により整備された優良農地での高収益形農業の推進や市民との交流推進など市内の農業振興の拠点エリアとして積極的に活用されている地域である。耕地面積は都市部で減少傾向だが、当該地域周辺の農業振興地域では横ばいである。</p> <p>堺酪農団地では、本事業の進捗を踏まえながら、酪農団地活性化計画の実現に向けて、着実に活動を進めている。</p> <p>ハーベストの丘の入場者数は開園時と比べて減少しているが、ここ 2,3 年はほぼ横ばいである。また、直売所に対する都市住民のニーズの高さがうかがえ、付設する直売所の利用者・近隣の玉米館では入場者が一定の人数で推移し、盛況である。</p> <p>本地域に対する環境保全の市民意識は依然として高く、定期的に活動が行われている。</p> <p>整備された施設の活用が進められている。</p> <p>関係 3 市が、それぞれ特色ある交流型農業を引き続き展開しており、本事業による集落道の整備により新たな人の交流を進める。</p> <p>農業振興地域面積は横ばいであり、「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」(平成 20 年 4 月施行)に基づき府民協働による農地の保全・活用を図る。堺市の人口は市町合併により増加しているが、当該地域では横ばい、周辺ニュータウンでは減少傾向にある。</p>
	事業効果の分析	費用便益分析	<p>・ B / C = 2.64 便益総額 B = 49.9 億円 総費用 C = 18.9 億円</p> <p>算出根拠 ・農林水産省「解説 土地改良の経済効果」 ・CVM 調査・TCM 調査</p> <p>受益者： 地域営農者(鉢ヶ峰土地改良区、酪農団地)、 地域住民、 府民、 施設管理者</p> <p>【備考】 具体的な便益効果 走行経費節減便益：農業交通・一般通過交通の走行経費節減にかかる効果 計算方法：(対象車両の年稼働時間×時間あたり走行経費)の集落道整備前後の増減額を算出する。 対象車両の種類：農業交通、一般通過交通 走行経費の種類：車両の走行にかかる人件費、車両経費 快適性・利便性向上便益：地域の快適性・利便性向上、活性化の効果 計算方法：本集落道の整備により向上する利便性に対する支払意思額を地域住民アンケート結果から評価し数値する(CVM調査)。 具体的には、本集落道を40年間の寄付により整備すると仮定した場合の月額支払可能額を周辺集落(上神谷地区)住民、農業受益者、ニュータウン住民から聞き取り、その平均額に戸数をかけて年あたり効果額として算出。 地域間交流促進便益：アクセス向上により相乗的な交流を促進する効果 計算方法：周辺交流施設利用者が酪農団地やハーベストの丘を訪れる頻度と旅行費用について、本集落道整備を行わない場合と行う場合を想定したアンケート調査により把握し、その結果から需要曲線を描いて整備前後それぞれの年間の価値(消費者余剰)を求め、その差を効果とする(TCM調査)。 対象周辺交流施設：ハーベストの丘、花の文化園、サパーファーム 維持管理費節減便益：施設の管理費用の節減効果 環境保全便益：植生の回復により緑を維持する効果</p>	<p>・ B / C = 1.37 便益総額 B = 41.8 億円 (49.9 億円) 走行経費節減便益 17.6 億円(20.6 億円) 快適性向上便益 8.0 億円(8.8 億円) 地域間交流促進便益 16.2 億円(17.3 億円) 維持管理費節減便益 0.5 億円(0.7 億円) 環境保全便益 0.5 億円(3.9 億円) 総費用 C = 30.5 億円(18.9 億円)</p> <p>() は事前評価時の便益額</p>

その他の指標 (代替指標)			
定性的分析	<p><安全・安心> 安全で新鮮な農産物の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 農産物直売所等へのアクセスの改善により、近隣農地で生産された安全で新鮮な農産物の提供を促進。 酪農団地での生産物の流通の合理化と、牛糞堆肥の農地還元の促進。 <p><活力> 地域全体の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣市の農業関連施設等が有機的にネットワーク化され、施設間の連携や都市住民との交流が促進されることによる、近隣市も含めた地域全体の活性化。 <p><快適性> ゆとりとふれあいの場を府民に提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 農を活用した教育、福祉、健康・レクリエーションなど府民の多様なニーズへの対応。 <p><その他> 地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 本集落道を活用した堺酪農団地活性化計画の中で、生産団地の機能向上とともに、子牛とのふれあいの場(育成牧場)の提供を計画しており、府民に開かれた場としての社会教育的活用が図られる。 「堺南部丘陵地区農のウォーキングロード推進協議会(農業者、地域住民で構成)」が取り組んでいる農と都市住民との交流活動が促進される。 	<p>左記の定性的効果の発現が確実に見込めるよう、本事業の実施と連携し着実な地域の取り組み等を実施。</p> <p><安全・安心> <活力> <快適性></p> <p>ハーベストの丘は年間約37万人の入場者、併設する直売所利用者16万人、コスモス館(直売所と体験農園)は年間約6万人の入場者でにぎわっている。</p> <p>ファストガーデンでは、市民農園区画を増設</p> <p>ハーベストの丘併設の農産物直売所は売場面積を3.5倍に拡張し、今年度リニューアルオープン。</p> <p><その他></p> <p>事業進捗を踏まえ堺酪農団地では交流活動の基盤となる子牛育成牛舎がH20に完成した。</p> <p>ウォーキングロード協議会で作成したコースマップを活用したサイン整備を行い、市民がウォーキングを楽しむ姿が見られるようになった。</p> <p>本事業を契機とし、「堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会」が組織され、周辺自治会が主体となって地域環境保全活動(里山クリーンアップ)を平成19年度から毎年実施しており、地域住民の環境保全への意識が高まっている。</p>	<p>安全・安心な農産物の供給のみならず、健康やレクリエーション等多様な府民のニーズは高い。</p> <p>本事業を契機として、地域住民の環境保全の意識が高まっている。</p>
自然環境等への影響と対策	<p>(自然環境への影響をできるかぎり低減するための対応)</p> <p>本事業区域は里山的な自然環境が多く残された地域であり、環境調査等に基づき、事業区域を行動範囲とする猛禽類(オオタカ)をはじめとする生物や植生に配慮した線形・工法を採用し、事業実施にあたっては、事業実施に伴う自然環境への影響を低減するための保全方法を検討し、自然回復に努めていく。</p> <p>(専門家意見を反映)</p> <p>本事業に関する自然環境への配慮については、大阪自然環境保全協会や地元環境団体と協議を重ねてきたところであり、猛禽類については、今後とも引き続きモニタリング調査を行い、専門家の意見を踏まえつつ、事業を進める。</p> <p>(事後調査により影響を提言)</p> <p>平成15年度は、本事業区域でこれまでに実施された環境調査等を基に、環境アクセスに準じた資料整理を行った。本集落道の建設が地域の生態系に及ぼす影響を評価、予測し、適切な保全措置と必要な事後調査を行い、環境への影響を最小限に低減させる。</p> <p>(堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会で引き続き検討)</p> <p>また、本地域における里山保全のあり方や集落道事業の環境への配慮について、地元等関係者が、十分協議・意見交換しながら、協働・連携していくための仕組みづくりの第一段階として、農畜産業者(酪農団地・土地改良区・営農組合)、地域住民、環境団体等により『(仮称)堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会』を平成15年7月に立ち上げ、これまで6回にわたり議論を行ってきたところであり、今後とも、本事業の環境配慮や里山保全のあり方についての議論を継続実施し、地域振興と自然環境が共存する取組みを進める。</p>	<p>評価委員会での意見具申を踏まえ、集落道事業の環境への配慮については、「堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会(以下、「考える会」)」で調査に基づく具体策について議論を進めてきた。H17以降は、専門検討部会において詳細検討を行い、工事において取り組んでいるところ。</p> <p>考える会：16回開催</p> <p>専門検討部会(堺南部の里山に配慮した農道づくり検討会)：16回開催</p> <p>【猛禽類】生息状況調査を毎年実施、専門家の意見等を踏まえ、事業を推進。</p> <p>【カミサツヨウウオ】H17.2~3 調査実施(卵確認)</p> <p>工事濁水流入防止対策(仮排水路等の設置や工事手順の検討)を実施。施工後も卵塊調査を継続中。</p> <p>【ゲンジボタル】H12~環境団体がルートセンサスを実施。橋梁照明の光拡散防止対策について、現在検討中。</p> <p>【ほ乳類】H16痕跡調査実施後、動物用通路を道路下に設置し、通行に配慮。</p> <p>【植物】マザ-ソイル工法により地域種の道路法面への移植を進める他、試験区を設置し、事後モニタリングを実施中。</p> <p>環境配慮や里山保全のあり方の議論を継続する中で、地域環境保全活動(里山クリーンアップ)を実施することとした。(H19~2回開催)</p>	<p>「考える会」、「専門検討部会」を効果的に活用し、環境配慮に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【猛禽類】継続した調査により、これまでのところ工事による大きな影響はない。</p> <p>【カミサツヨウウオ】濁水対策の効果により、工事による生息環境への影響は回避されている。</p> <p>【植物】マザ-ソイル工法により、在来種による植生の再現を図っており、実施効果について引き続き調査を実施していく。</p> <p>多数の地域住民の方々が里山クリーンアップに参加され環境保全の意識が高まっている。</p>
その他特記すべき事項	<p>堺酪農団地の活性化については、『堺酪農団地活性化推進協議会』(平成15年2月発足：大阪府、堺市、堺市畜産農業協同組合、大阪府土地改良事業団体連合会、大阪府畜産会)において、本集落道の事業進捗に合わせたハード及びソフトの取組みを順次進めているところであり、環境問題にも配慮した「堺酪農団地活性化基本計画」の実現を図っていく。</p> <p>体験型農業公園「ハーベストの丘」については、開園当初特有の賑わいは一定落ち着いたものの、広域交流による地域振興の核施設として重要な役割を果たしているものであり、今後も安定運営を行うべく、入園者増(H25目標：年間50万人)に向けて、公園施設のコンテンツの充実、体験教室のメニューの開発、サービスの向上、効果的なPRなど、管理運営者の経営努力が期待されることである。</p> <p>近隣の農産物直売所においては、積極的に運営努力がなされており、安全で新鮮な農産物を求める府民のニーズが依然として高いことから、今後も地域農業との連携を進め、地域振興の核としての持続的な発展を図っていく。</p>		

前回評価時の意見
具申・府の対応方針
の概要

【平成14年度建設事業評価委員会意見具申】
本事業については、次の「条件を付して事業実施手続きに入ることを認める」ものとする。
(条件)
(ア)農業振興・地域振興の実現に向けた取り組み
堺酪農団地の活性化については、「堺酪農団地活性化基本計画」に基づき、生産性の向上と地域交流の推進が図れるよう国庫補助制度を活用するなど、府・市・堺酪農組合の三者が協同して、その実現に努めること。
また、先導プロジェクトである体験型農業公園「ハーベストの丘」については、農と都市住民との交流に一定の効果をもたらしていることが認められるが、それが今後とも地域振興の核施設として持続・発展していくかどうかについては、その推移を検証していくことが必要である。また、関係市とも連携して拠点施設の広域交流のネットワーク化を推進すること。
(イ)自然環境への配慮
本事業区域は、里地・里山といった二次的自然が多く残っているところであり、その管理・保全の仕方やあり方を巡って府民や関係者から立場を異する多数の意見が寄せられている。また、こうした環境への負荷を最小限に止めることが可能かどうか不確定な要因もあり、今後とも、モニタリング調査等を継続して行っていくとともに、調査結果を踏まえ、必要であれば構造、工法、線形を変更するなど、適切な事業管理に努めること。
また、事業実施中はもちろん、完成後の管理段階においても、地元等関係者が、自然環境の配慮について十分協議・意見交換しながら連携・協働していくことが可能となるような仕組みづくりを進めること。
今後、(ア)(イ)の付帯条件が適切に担保されるように最善の努力を払い、その達成度を検証するとともに、モニタリング調査を継続して行うことにより、最終的に整備内容を精査する中で、全体としての事業コストの縮減を図りたい。
今後、以上の点について所定の成果がまとまったと考えられる段階で、本事業のさらなる展開の是非について本委員会でも改めて検討することとする。
(必要性・事業効果について)
本事業は、都市住民との交流による地域振興を図るとともに、あわせて里山を中心に農林業を通じて維持・保全されてきた自然環境を、将来にわたり良好に管理する上で重要な役割を果たすものである。また、堺南部丘陵地域のみならず、隣接する河内長野市、和泉市なども含めた広域的な拠点施設のネットワークの形成並びに堺酪農団地の活性化や府民との交流を目的とした、「酪農団地活性化基本計画」の実現に寄与することが期待される。さらに、本地域において、東西軸が整備されることにより、上神谷地域における生活利便性が向上するとともに、副次的効果として「ハーベストの丘」周辺道路の渋滞緩和につながることを期待される。
本委員会としては、本事業を活用して地域振興のビジョンの実現を図っていくことが効果的かつ効率的であり、全体として事業実施の必要性は認めるものの、本事業を通じて実施される農業振興、地域振興に向けた取組み及び効果等いわゆる緊急性については十分確認するに至っていない。このため、上記の「条件を付して事業実施手続きに入ることを認める」ものとするものである。
なお、本事業の審議を通じて、事前評価のあり方に関わるいくつかの課題が浮きぼりとなった。今後、府において建設事業評価のあり方を検討する際に十分留意されたい。
まず、本事業のように多面的かつ複合的な事業効果が想定される事業については、それぞれの効果を並列的に議論すると、本来の趣旨目的が埋没し、必要性や緊急性が見極めにくくなる。例えば、本事業においては、副次的効果の一つである渋滞対策が強調されたため、道路におけるバイパスの整備効果との比較が主たる論点となるなど、審議の過程において議論が錯綜した。今後、こうした多目的化した事業については、その主たる事業目的と二次的目的(副次的効果が期待されるもの)等の優先度を明示することにより、それらの基準に即応した形で効率的で最適な事業であるのかを総合的に判断できるよう、資料作成や説明において十分工夫すべきである。
また、本事業区域のように、良好な里地・里山を形成している地域においては、その適切な維持管理のために、地元、農業関係者など幅広い関係者の理解と協力が必要である。このため、計画の早い段階で、関係者に対して、計画の素案、代替手法、環境影響の調査結果など環境保護上支障のない各種情報を公表するとともに意見交換や協議の機会を設けるなど、行政がコーディネーターとしての役割と責任を果たしていくことが求められる。こうした考え方は、計画段階における透明性・客観性の確保をめざすパブリック・インボルブメントの考え方にも通じるものであり、今後の事前評価システムの充実に活かされたい。

【平成15年度建設事業評価委員会意見具申】
本事業については、昨年度「条件を付して事業実施手続きに入ることを認める」との意見具申を行い、所定の成果がまとまった段階で本委員会でも改めて検討することを求めたものである。
今回、昨年度の意見具申で付した条件についてその後の取組み状況等の報告があり、本委員会として審議した結果、以下の理由により「事業実施は妥当」と判断する。
・本事業は、生活基盤の整備が立ち遅れている堺南部丘陵地域の利便性・安全性向上、都市農村交流の促進、堺南部丘陵地域における農業施設相互間の連携など農業振興地域の活性化を図るといった基本的な目的・効果に加えて、本事業に関連する個々の施設の活性化や渋滞緩和など副次的・派生的な目的・効果が含まれている。本委員会としては、これらを総合的に判断して本事業の必要性を確認した。
・本事業区域でこれまでに実施された環境調査等をもとに、環境アセスメントに準じ、本集落道の建設が地域の生態系に及ぼす影響を評価・予測し、適切な保全措置と必要な事後調査を行い、環境への影響を最小限に低減させる取組みを進めているとの説明を受けた。また、本地域における里山保全のあり方や本事業の自然環境への配慮について、昨年度の本委員会の意見具申に基づき、地域住民、農畜産業者、環境団体等地元関係者で構成するワークショップを立ち上げ協議を行ってきており、引き続き、地域振興と自然環境が共存する取組みを進めていく予定であることを確認した。
なお、自然環境への配慮に関し、モニタリングの調査結果に基づくワークショップの取組みと府の具体策を、今後とも本委員会に報告されたい。
また、本事業の周辺区域は府域でも有数の都市近郊型農業地域であり、安全・安心な農産物の提供や農業・農空間の持つ多面的な機能を活かした交流型農業など地域の特色ある農業振興がどのように発展しているのかについても事後的に検証し、本委員会にあわせて報告されたい。
さらに、堺酪農団地において発生した環境問題については、その生産活動が地域の自然環境や生活環境に大きく関わっていることから、府としては、「堺酪農団地活性化推進協議会」などを通じて地元市とも連携に努め、今後とも適切にその調整に取り組むべきであろう。

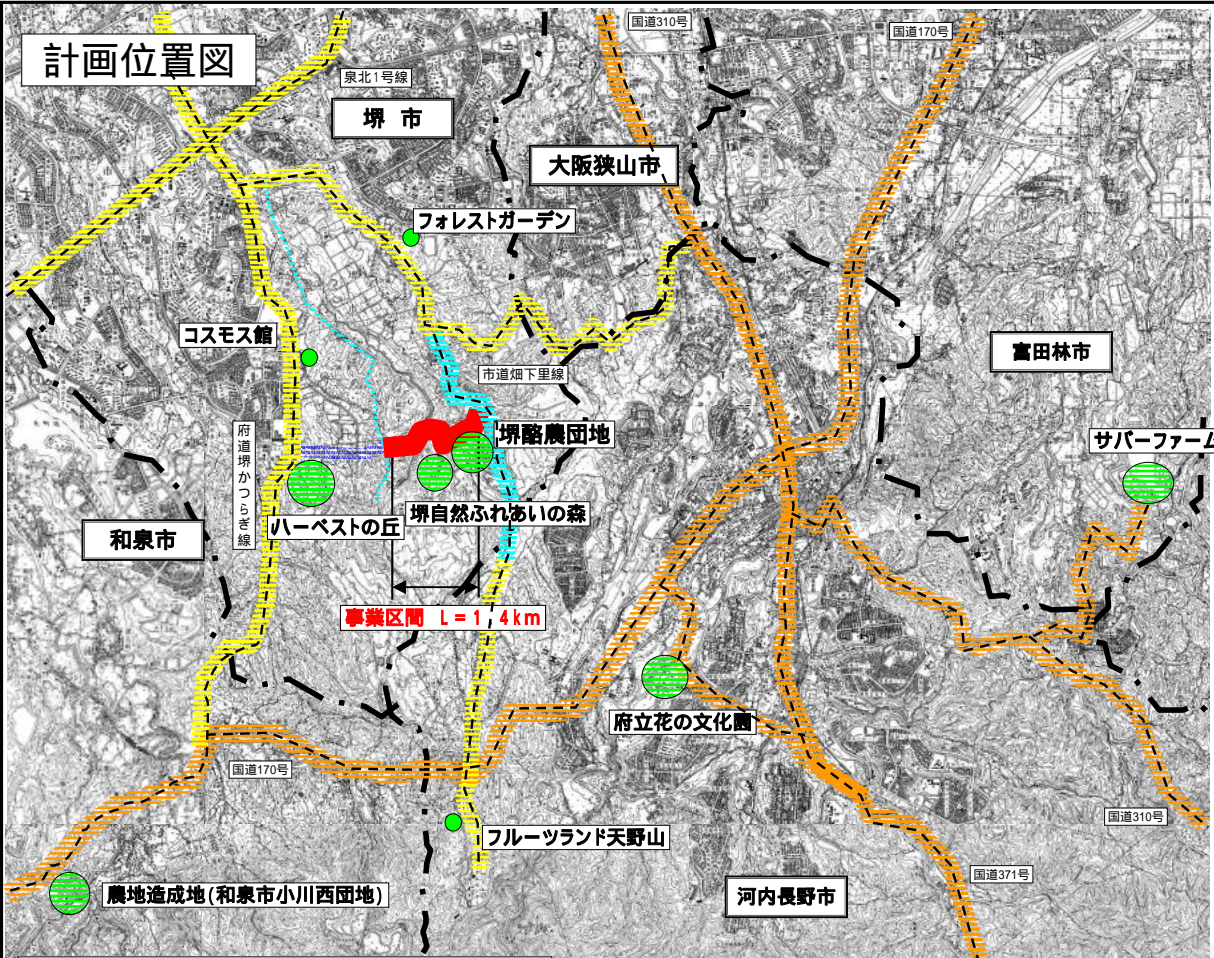
【平成17年度建設事業評価委員会へ報告】
平成15年度の意見具申を踏まえて、「自然環境への配慮に関するモニタリングの調査結果に基づくワークショップの取組みと府の具体策」について、報告を受け、取組み状況を確認した。

平成14年度の評価委員会の意見具申を踏まえて、「堺南部丘陵の地域振興と自然環境を考える会(以下、「考える会」)」を設置し、本事業の環境配慮や里山保全のあり方について議論を行い、対策を実施(計16回開催)
H15:7回開催 里山保全の取り組み検討等
H16:2回開催 環境配慮の具体策検討
法面植生実験報告
H17:4回開催 里山再生への取組プラン検討
下部組織として堺南部の里山に配慮した農道づくり検討会を立ち上げ
H19:1回開催 農道づくり検討会、酪農団地活性化協議会等からの報告・意見交換
H20:1回開催 報告・意見交換、
里山保全の取組(クリーンアップ)
H21:1回開催 報告・意見交換、
里山保全の取組(クリーンアップ)

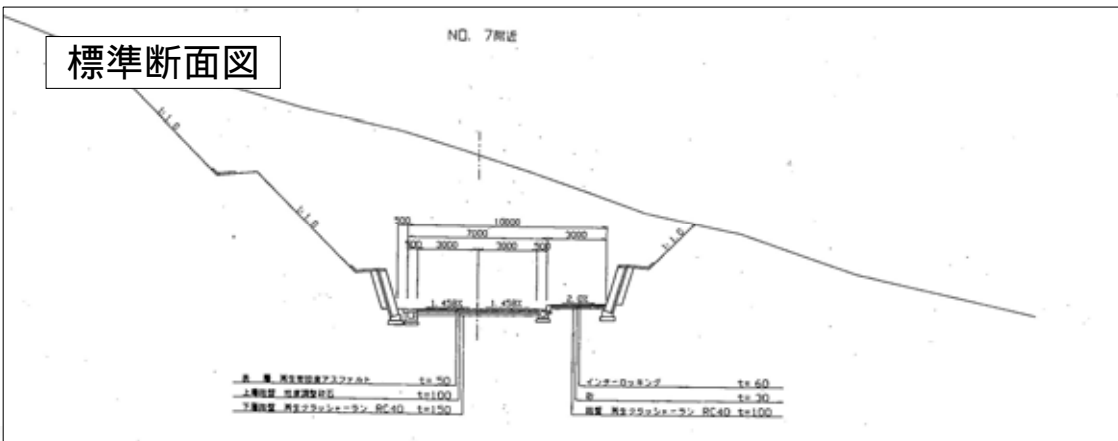
堺南部の里山に配慮した農道づくり検討会(「考える会」の下部組織)(計16回開催)
H17:2回開催 切土法面の緑化について検討等
H18:5回開催 加ミサツヨウカ濁水対策、ほ乳類調査、環境配慮等
H19:5回開催 法面緑化、濁水対策、野生動物対策等
H20:4回開催 法面緑化、加ミサツヨウカ調査等

具体環境配慮対策について
【猛禽類】生息状況調査を毎年実施、専門家の意見等を踏まえ、事業を推進。
【加ミサツヨウカ】H17.2~3 調査実施(卵確認)
工事濁水流入防止対策(仮排水路等の設置や工事手順の検討)を実施。施工後も卵塊調査を継続中。
【ゲンジボタル】H12~環境団体がルートセンサスを実施。橋梁照明の光拡散防止対策について、現在検討中。
【ほ乳類】H16痕跡調査実施後、動物用通路を道路下に設置し、通行に配慮。
【植物】マザーソイル工法により地域種の道路法面への移植を進める他、試験区を設置し、事後モニタリングを実施中。

農空間整備事業(交流型集落道)「堺南部地区」



凡 例	
—	計画道路
---	周辺道路
---	関連事業区間
●	農業関連施設



計画平面図

